

【目的】設計者は居住予定者の希望と設計上の諸条件（敷地面積、床面積、工事費）をもとに二世帯住居における同一機能の空間数を決定する。ゆえに、人々の「二世帯住居における同一機能の空間の設置数」に関する希望状況は二世帯住居の設計のための資料になる。本論は第一報として女子学生が希望する「二世帯住居における同一機能の空間の設置数」を報告する。

【研究方法】本論は駒澤大学 苫小牧短期大学の48名の女子学生を対象とした二世帯住居に関するアンケート調査を報告する。彼女たちは将来結婚して夫の両親と二世帯住居に同居する場合を想定してアンケートに答えた。本論は団欒と食生活と家事作業の3つの生活行為を実施する空間を中心に扱う。このアンケート調査は同一機能の空間の設置数と二世帯住居への居住希望には選択回答方式を採用し、回答理由には自由記入方式を採用した。

【結果】彼女たち（48名）の大部分の者は居間または食堂または台所または家事室または玄関を2室ずつ設置したいと考えている。全体（48名）の50%の者は完全分割型二世帯住居を希望している。2名の者だけは玄関と各空間が1室ずつ設置される住居に二世帯で居住することを希望している。各合同型生活を希望する者の約半数以上の者は各生活行為に該当する空間（居間、食堂、台所、家事室）を2室ずつ設置したいと考えている。各生活について合同型でも独立型でもよい者の大部分の者も各生活行為に該当する空間を2室ずつ設置したいと考えている。また、居間を2室設置したい者の大部分の者は食堂を2室設置したいと考え、食堂を2室設置したい者は全員台所を2室設置したいと考えている。